

はじめに

Preface

立命館大学 歴史都市防災研究センター センター長
Director, Research Center for Disaster Mitigation
of Urban Cultural Heritage, Ritsumeikan University

土岐 憲三
Kenzo TOKI

学術フロンティア推進事業「文化遺産と芸術作品を
自然災害から防御するための学理の構築」代表

学術フロンティア推進事業「文化遺産と芸術作品を自然災害から防御するための学理の構築」は平成17年度から始まったが、事業の一環として平成18年3月には、国と立命館大学とのマッチング方式により建物が完成した。場所は衣笠キャンパスに隣接する閑静な住宅地である。鉄筋コンクリートの地下1階、地上2階の建物であり、内部には展示ルームと準備室、研究交流室、研究スタッフルーム、カンファレンスホール、プロジェクト室、資料室、GISルーム、ならびに教員の研究室などが設けられている。

一方、立命館大学には「歴史都市防災研究センター」が平成15年8月から設置されており、平成18年度からは上記の建物がこのセンターの拠点である。このセンターが当該学術フロンティア推進事業と、平成15年度から19年度までは21世紀COEプログラム「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」、平成20年度からはグローバルCOEプログラム「歴史都市を守る『文化遺産防災学』推進拠点」の複数の研究事業の推進拠点となっている。

これらの研究事業は、いずれも文理融合型の研究推進の典型的な例の一つであり、文系と理系の研究者が協働して所期の目的達成に向かって研究を進めている。こうした融合型の研究を推進するためには、協働のための場を共有する事が何よりも大切であり、研究者相互間の人的、知的交流が基本でなければならない。すなわち、筆者は日頃から「人融知湧」を旨としているが、これは専門を異にする人が融けあうことによって、新しい知恵が湧いてくるとの考えに基づいており、この観点からすれば歴史都市防災研究センターならびにそこで行われている2つの研究事業こそ、文理融合の実現の場であり、「人融知湧」が行われているのである。

学術フロンティア推進事業では、グローバルCOEプログラムと、部分的には人的・物的な共有部分を有しながら、一方では両輪としての機能を果たしつつ研究を進めている。研究を推進するための執行会議としての幹事会を2つの事業がそれぞれに有しており、それらを毎月1回同じ場所で相前後して開催する事により、相互の連携を図っている。このように、共同研究の場としての「歴史都市防災研究センター」が設けられた事により、文化遺産を自然災害から守ると言う所期の目的に向かって、それぞれの研究事業、プロジェクトが、緊密な連携を取りつつ推進されているのである。

学術フロンティア推進事業「文化遺産と芸術作品を自然災害から防御するための学理の構築」は平成22年3月末に終了するが、所期の目的はほぼ達成されたものと考えている。状況の許す限り継続してプロジェクトを展開し、当該事業で得た成果を深化・発展させる所存である。

これまでの5年間にわたって、当該プロジェクトの推進にご協力頂き、ご支援下さった関係者に深謝する次第である。